おやつのじかん３　ーちょっとひとやすみー

ーアンバランスさにはー　　ＮＯ．６３

最近、リモートでの会議が多くなっています。最初は慣れずに緊張していましたが、回を重ねるごとに使い勝手もわかってきて、“便利なシロモノ”になりつつあります。会議の場所まで行かずに済むのがいちばんのメリットです。もともと知っている方々との話し合いなら、人となりも場の雰囲気もわかっているので安心です。初対面の方だと、画面ではわからないことが多く、その後にお会いしたとき、“こんな方なんだな”と改めて知り合う形になります。伝えたいことがしっかり伝わっているのか、 伝えたい思いをしっかり汲みとれているのか、不安になることも多く、便利さとのアンバランスさに、しばらく気を使いそうです。

さて、子ども達の歩みに寄り添う中で、育ちの手応えはあるのに、過ごしやすさにつながっていない姿があります。せっかくの歩みが足踏みしているようにも見えて、「なんだかうまくいかないな～」と、天を仰ぎたくなってしまいます。これ！ まさに育ちのアンバランスさです。

「その子に合わせた支援が必要」という言葉を聞くと、その子の全てに支えが必要なように思えてしまうかもしれません。でも、その子の姿を見ていくと、“こういうことは得意そうだな”“こういうことは自然な育ちの中で伸びていくだろうな”と整理できてきます。必ずしも、全てのことに支援が必要なわけではないのです。苦手なことがあっても、得意ジャンルがカバーして、引っ張り上げてくれることは珍しいことではありません。ただ、得意なことが育ってくると、支える必要がある部分との差が開いてしまう時期があります。そんな時、子ども自身もバランスの悪さにストレスを感じていることが多いですね。

例えば、わかることが増えてきたのに、表現することがまだ追いついていないと、言い尽くせない思いが爆発して、感情的になることが増えたり、伝わらなさを行動で表したり。結果、物を投げたり、お友達に手を出してしまったり。叱られてもモヤモヤ感が残り、素直に謝れない。そしてまた怒られる。「やってもいいよ」と言えるものでもないので、大人も“しんどい”ですが、本人もそれ以上に困っていると思います。また、やりたい気持ちは膨らんでいるのに、どうにも上手くできなくて、イライラが募ってしまう姿もあります。できない気持ちを道具にぶつける子がいます。勝負に負けた理由を相手のせいにして、気持ちをぶつけてしまう子もいます。何度も何度も頑張って、それでも報われず、「どうせやっても…」と、あきらめグセがついてしまっている子もいます。「成功する体験を重ねていきましょう」というフレーズ、よく耳にすると思います。アンバランスさのある子どもにとっては、「得意なことはどんどん伸ばし、苦手なことは手を借りてでも成し遂げよう」「それが育ち全体を押し上げ、少しずつ自分の力で何とかできるように」「頑張ろうという思いが叶う経験を」というメッセージに言い換えられると思います。

言うのは簡単です。子どもの気持ち（イライラ感）もあるので、サポートの仕方やタイミングは微妙です。向き合える時間もそう多くはないし、親子だと、どの関係よりも感情的になるものです。

時間と場所と人、そして空気が揃っている**あんず**で、子どもも大人も思いを伝えあい、汗をかきながら、最後は一服、涼んで帰りましょう！ 足踏みじゃない。着実な一歩です。（Ｒ３．８）Ｋ